

リモートマッチ開催 長良川競技場に近づくのはやめましょう。リーグの円滑な運営にご協力を。

today's guest : FC今治

2019 JFL 13勝12分5敗 勝ち点51:3位

直近の対決と結果

初顔合わせ

ここ3試合の公式戦の結果

	FC岐阜	FC今治
	2019/11/24 J2-42節@味スタ 東京V 5-1 岐阜	2019/12/01 JFL-30節@夢スタ 今治 0-0 青森
	2019/11/16 J2-41節@長良川 岐阜 1-3 甲府	2019/11/24 JFL-29節@夢スタ 今治 2-2 ロック
	2019/11/09 J2-40節@デンカS 新潟 2-0 岐阜	2019/11/17 JFL-28節@三交鈴鹿 鈴鹿 2-0 今治

FC今治:

1976(昭和51)年創設の『大西SC』から始まり、『今越FC』(いまお=今治市と越智郡のこと)、『愛媛しまなみFC』、愛媛FCの下部組織『愛媛FCしまなみ』、そして現在の『FC今治』と組織や名称を変えつつも、今治市とその周辺を拠点に活動を続けてきた。元・FC岐阜監督の木村孝洋氏の監督就任時(2012-2015)は四国リーグを4年間で3回制するも地域決勝(地域CL)はいずれもグループリーグ敗退。しかし、2012年の天皇杯では2回戦でJ1の広島を破る快挙も。2016年(平成28)の地域CLを優勝しJFL昇格。翌年にJ3ライセンスを受け、JFL3年目の昨年に3位となり今季よりJ3加盟。(吉田铸造)

●世界中に蔓延した新型コロナウイルスの影響を受けて、3ヶ月以上も遅れてようやく開幕する2020年J3リーグ。我らがFC岐阜は、いくつもの新たな要因を抱えながら、このシーズンを戦っていくことになる。

まずは何と言っても、はじめてのJ3リーグということだ。2008年にJ昇格以降、何度となく降格(あるいはクラブ消滅)の危機を迎えながらも、FC岐阜はJ2の舞台で戦ってきたが、遂にJ3へ降格。非常に残念かつ悔しい結果だが、これを受け止めて、前を向いて今シーズンを戦い抜くしかない。とすれば、やはり今季の最大の目標はJ2復帰だ。そして、JFLも含めて全国リーグでは優勝経験がないFC岐阜。J3優勝を手みやげにしてJ2復帰を果たしたところだが、それは簡単なことではない。実際、J2からの降格制度が作られた2014年以降、1シーズンでJ2に復帰できたのは2016年の大分のみ。J2経験のある富山・熊本・鳥取・讃岐そして鹿児島と岐阜が今シーズンのJ3にいるという現実を直視しなくてはならない。また過去3年間の傾向からすると、J2昇格には全34試合で勝ち点60以上が必要だ。つまり3試合で2回は勝たなくてはならない。カテゴリーが下がったとはいえ、“勝ち癖”のないFC岐阜にとっては困難な目標だ。

また、今季がいわゆる“ポスト・コロナ”の状況下で行われるシーズンという要因も見逃せない。開幕が3ヶ月以上遅れた影響でシーズン期間は短縮され、当初は予定されていなかった水曜開催が6試合増えるという過密日程。したがって、今季はコンディション調整が非常に重要となるだろうし、選手層の厚さや開幕ダッシュが欠かせない。ちょっとしたチームの躓きが、大きく結果に影響するだろう。そして、緊急事態宣言は解除されたものの、今もなお感染拡大防止策を採りながらチーム作りをしてゆく困難さもある。万が一、年内に再び第2波の感染拡大が起きた場合には、シーズンが途中で終了する事態も想定しなければならない。

こういった未体験の状況で2020年シーズンを迎えるFC岐阜だが、明るい材料もある。まずは北西部グラウンドが天然芝2面となり、練習環境が向上した。また、昨年末までの反省から新たにフィットネスダイレクターを配置して、データを活かしたフィジカル強化とコンディション調整を行っている。そして、3ヶ月の延期で(中断期間があったが)開幕戦までのチーム練習の時間は多くなった。今季からゼムノビッチ監督が指揮を執るFC岐阜にとっては、チーム戦術やフィジカル強化に時間を割くことができたのは、好材料と捉えることができるだろう。とはいえ、やはり開幕戦は新たなチームでの初船出。様々な期待と不安が入り混じるが、先述のとおり今季は勝ち続けるしかないのだ。開幕戦こそは勝利で飾らなくてはならない。

さて、そのシーズン開幕戦の対戦相手はFC今治。岐阜とは逆に、今季JFLからJ3に昇格したチームで、元日本代表監督・岡田武史氏が代表を務め“岡田メソッド”なる育成方法を導入していることでも有名だ。実績としては岐阜の方が上だが、J3昇格を果たして勢いのあるチームとの初戦ゆえに、試合運びの難しさも予想される。また、今治は6/20(土)に行われた愛媛との練習試合を2-1で勝利しており、その実力は未知数ながら油断は禁物だ。そして、元日本代表で経験豊富な#3駒野友一や#27橋本英郎、地元出身の#19越智亮介、昨季は鳥取で11得点を挙げた#11林誠道といった選手には注意が必要だ。

残念ながら、ホーム・長良川競技場で行われる、この開幕戦を僕らはリモートマッチ(無観客試合)で迎えることになる。岐阜の選手たちの活躍をこの目で見るのが、そしてスタジアムで声援を送ることができないのは残念だが、再びスタジアムに集まることのできる日を待ち望みながら、それぞれの場所で、選手たちに声援を送り、勝利を信じよう。今季は“J3優勝・J2復帰”という困難なミッションを掲げて戦うFC岐阜。それでも僕らは希望を胸にして進もう。さあ、待ちに待ったJ3リーグ・2020シーズンの開幕だ。(ささたく)

2020J3 ■順位表 ■開幕前

<北九州、群馬がJ2へ昇格>

鹿児島 (J2から降格)

岐阜 (J2から降格)

藤枝

富山

熊本

C阪U

鳥取

秋田

長野

八戸

福島

沼津

Y横浜

讃岐

相模原

G阪U

岩手

今治 (新加盟)

※FC東京U-23はリーグ戦不参加。

次回HomeGame

第3節 vs.カマタマーレ讃岐

7/11(土) 18:00

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前(三菱UFJ銀行隣り)

年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【TM】名古屋戦

●約1か月間の緊急事態宣言が解除され、チーム練習も再開されたFC岐阜。だけど、その後も非公開なので、チームがどんな状況なのかほとんど分からず、ちょっと(かなり?)やきもきする日々。なので、配信で公開される練習試合は、貴重な情報源。6/13(土)の金沢戦は、大雨だったし、30分4本中の2本しか公開されなかったが、どうやら(その時の)2ndチョイスのメンバーが中心。2本で0-0の結果は、まあ悪くないけど…といった内容。そして6/17(水)の磐田戦は、平日昼間のライブ配信だったので見れず。45分の前後半、つまりフルマッチで0-5との結果以外は何も分からず。そして6/20(土)には、名古屋との練習試合。J2金沢、J1から降格した磐田、そしてJ1名古屋と、カテゴリー上位との練習試合で開幕に向けてチーム課題を浮き彫りにしてゆく意図の感じられるマッチメイクですね!(笑)

さて、名古屋との対戦のスタメンは、金沢戦と比べて選手を変更。もちろんこれが1stチョイスかどうか不明だし、選手の組み合わせを試すのが練習試合の目的のひとつ。ただ、今季の過密日程を考えると、いろいろな組み合わせが機能するのだとしたら、それは頼もしい。そして実際、岐阜の守備は比較的よかったかなと思う。序盤に連携が不安定でヒヤリとさせられる場面があったけれど、名古屋にボールを保持されながらも、重要な局面ではボールをしっかりと奪うことができていた。フィジカル強化の効果が出てきているのかも? また、磐田に0-5で敗れた試合から守備が改善されているのだろうと思う。ただし、ボールを奪ってから攻撃に繋げるころには課題が残る。縦へ素早くボールを繋げる意識は全ての選手が持っているが、そのタイミングやパスの精度が悪く、ことごとく名古屋にボールを奪い返されてたような…(溜息)。それと、現時点での名古屋というチームの評価も難しい。金崎とラングラックに新型コロナウイルスの陽性判定が出て、両選手は入院、全体練習の再開は1週間前からで、岐阜より2週間以上も遅い。そしてJ1の再開はJ3開幕よりも1週間遅いため、チームコンディションが悪い名古屋。カテゴリーが2つ上の格上チームだけど、これをどう評価して良いものか…(苦笑)。まあ、両チームとも選手を交代させてゆき、徐々に(おそらく)主力級同士の対戦になっても、決定的なピンチを迎えることがなかったのは、良かったのだと思いたいです(苦笑)。ただ、だからこそ2本目の終了間際に与えてしまったPKは非常に勿体ない。昨季も試合終了間際に足が止まって失点し、多くの勝ち点を失ったという苦い経験があるのだから、ここはしっかりと反省して欲しい。それと攻撃面の不安材料は…J3だったら通用するのだと…信じた…(苦笑)。今年もまた、Jリーグがやってくる。しかし、今年も結果が求められるシーズン。今までよりは厳しめに(?)、今年も全力で応援します! ああ、はやくスタジアムで試合が見たい!(切実)(ささたく)

いよいよ開幕です!

●これは私の周りだけの慣習かも知れませんが、シーズンが開幕して初めてスタジアムで会った人には「新年あけましておめでとうございます」と挨拶する(笑)んですが、それが6月までズレ込むなんて事態は想像した事はありませんでした。まあ、最初はリモートマッチなので、顔を合わせての挨拶はもう暫く出来ませんが(苦笑)。何にせよ、今シーズンが始まります。素直に嬉しいです! 今季は皆さんご存知のように超過密日程となっています。このハードなスケジュールの中では色々なアクシデントも発生するでしょう。でも条件は全てのチームで同じです。チームにはタフに戦って貰いたいものです。そして最終節をみんなで満面の笑みを浮かべて迎える事が出来ると良いですね。

まずは今日の今治戦。リモート観戦しながら吉報を待っています!!(ヤックル)

●いよいよ2020シーズンの幕開けだ。昨季の最終節からおよそ半年。こんなにも長い間、サッカーを現地観戦しなかったのは21世紀になって初めてだよ。そう考えると、この20年間というもの、サッカーにいろんな体験を積み重ねてもらったんだなあという感慨に耽ってしまうね。改めて、サッカーに感謝する次第だ。

感謝といえば、Jリーグの開幕・再開に漕ぎ着けてくださった関係者の方々を忘れてはならない。本当にありがとうございました。あとは、無事に全日程が完遂するのを願うばかりだ。それが出来さえすれば、関係者の方々の苦労が報われるというものではないだろうか。自分には何の力もないが、日程が滞りなく進むように出来得る限りの協力をしたい。無観客の試合の時にはスタジアムにも近寄らない。アウェイは控えてと言われてる間は行かない、とか。スタジアムで酒は呑むなと言われてたら……、呑めるようになるまで現地観戦をガマンする、かな?(苦笑)

まあ、冗談はさておき、今季は今までに体験したことないスタイルになる。J2ほどではないが、選手にとってかなり厳しい日程だ。選手だけでなく、ただ、現地観戦するだけの自分にとっても、それは同じ。今までは「行けない理由がない限り、行かない理由はない。」などと言って遠征を決行してきたが、今季はその他の事情もあり、アウェイへはほぼ行けないという状況。これからも『密になる』ことは避けなければならないが、そんな時は玉宮や駅前のお店で、例えば、この岐大通のスポンサー様であらせられる【大衆酒場ホームラン】や【チヂミ屋】とかで、大声を出さないように観戦したい。

それにしても、今季の長良川最終戦が平日開催とは……。なぜ、そうなったのか。その理由を聞く気はない。聞いてもしょうがない。そうせざるを得ない理由があったんだろう。でなければ、わざわざその日を選ぶはずがない。でもなあ、12月の水曜日か。雪は降らないだろうが、おそらくナイトゲーム。ホームなのに逆境だが、それ故に燃える。何がなんでも絶対参戦! それでも、観客数は少ないかもしれないが、ナニ、前節までに優勝と、昇格を決めてくれていれば全く問題はない。もちろん、J3がそんなカンタンなステージとは思っていない。が昇格するためには優勝が必至。それくらいの気持ちで選手、スタッフには臨んで欲しい。それを信じて疑わないよ。ただ、矛盾するようだけど、自分は今季のチームに結果は求めない。願うのは、繰り返しになるけれど、無事に全日程を終えることだけ。ケガもなく、病も得ず、ただ、ただ、ファミリーが、関係者全員がシーズンを乗り切ることができまようように。今季の開幕にあたり、自分の望みはそれだけだ。それ以外のことは、すべて望外。そんな気持ちで、たった一度、こんなのはこれっきりにしたいシーズンを迎えたい。頑張ろう。(ぐん)

●J3参戦にあたり、2つの相反する立場が必要だ。まず、これは他の執筆者も書いているけれど「FC岐阜はJ2から落ちてきたのだから、J3では最上位クラスだ」という意味不明の自信をもし持っているのなら、それは速やかに捨てなければならない。J2降格組のうち、鳥取と北九州はJ3最下位まで経験しているのだ。

もう一つは「J3は我々の居場所ではない」という、ある意味で『上から目線』のポジションをとることだ。そういう芯を持っていないと、あっという間に牙を抜かれる。「我々の居場所はここ(J3)でいいか」という風に。そして、一度抜かれてしまうと、居心地の緩いJ3リーグに根を張ってしまう。J3とは、そんなとてもとても怖いリーグで、そこを1年で勝ち抜くことをミッションとしているのが今季のFC岐阜だ。コロナ禍で厳しい環境、状況なのはどのチームも同じ。そんな中で、どう準備して、どう戦い、どんな結果を残すのか。刮目したい。(吉田铸造)